

坂野 元彦 和歌山県立医科大学リハビリテーション科

この度、専門医と認定して頂きました和歌山県立医科大学の坂野と申します。

現在は当科の地域医療再生プロジェクトの一環として、和歌山県那智勝浦町の公立病院に勤務しております。過疎化が進んだ地域では医療崩壊が深刻な問題となっており、当科より医師を3名派遣し、地域住人の健康を維持するため、各科にとらわれない総合的な診療を行っております。地域に根ざした医療を行っていただけるよう毎日ががんばっております。

今後ともよろしく願いいたします。

和田 陽介 東神戸病院 内科

私は、卒後6年間、内科医として勤務しておりました。市中病院の急性期医療や診療所の在宅診療に関わる中で、脳卒中後遺症や廃用症候群、摂食嚥下障害への対応の必要性を痛感し、リハビリテーション医を志しました。聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院で急性期、回復期、摂食嚥下リハを、兵庫県立総合リハビリテーションセンターで切断、脊髄損傷、脳卒中のリハを学びました。現在は市中病院で回復期リハ病棟の担当医を務めながら、急性期の摂食嚥下リハや研修医教育にも従事しています。今後は、プライマリケアの中で質の高いリハビリテーションを提供できるよう研鑽を重ねていきたいと考えています。

今後とも、ご指導の程よろしく願い申し上げます。

特報

第5回アジア義肢装具学術大会開催に向けて

兵庫県立リハビリテーション中央病院
ロボットリハビリテーションセンター長 陳 隆明

アジア義肢装具学術大会（以下アジア大会）は、現在3年ごとに開催されているものであり、アジアの地において義肢装具の最新知見を得られる絶好の機会であると同時に、アジア各国の義肢装具関係者の交流の場としても貴重な機会を提供しております。第5回大会を日本（神戸）で開催する事により、

学術的有利性のみならず、アジア諸国との連携をより強固とする上でも有益と考えています。経済的にも著しい発展を遂げているアジアを核とした義肢装具大会を継続していく事は、これまで欧米諸国を主導としてきた義肢装具の有り方に一石を投じるものであると考えます。

ぜひ多くの皆様に参加していただき、御支援を賜りたいと考えております。

学術大会の開催概要は以下のごとくです。詳細は大会HPをご覧ください。

第5回アジア義肢装具学術大会 (APOS2012)

Asian Prosthetic and Orthotic Scientific Meetings

大会テーマ：アジアの力を示そう (Powerful Asia)

会期 2012年8月3日(金)～5日(日)

会場 神戸国際会議場 TEL：078-302-5200
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1

大会長 陳 隆明 (兵庫県立リハビリテーション中央病院)

主催団体 国際義肢装具協会日本支部 (ISPO) / 第5回アジア義肢装具学術大会組織委員会

共催団体 社団法人日本義肢協会 / 日本義肢装具学会 / 日本義肢装具士協会 / 兵庫県立リハビリテーション中央病院

主要プログラム

- ・特別講演 山海 嘉之 先生 (筑波大学大学院システム情報工学研究科)
王 喜太 先生 (National Research Center for Rehabilitation Technical Aids)
Therdchai Jivacate 先生 (Prostheses Foundation of H.R.H. The Princess Mother, Thailand)
Bengt Soderberg 先生 (ISPO, The International Society for Prosthetics and Orthotics 副会長)
- ・シンポジウム 筋電義手に関するシンポジウム(アジア諸国の筋電義手専門家による)
ロボットリハビリテーションに関するシンポジウム (日本国内の著名な工学研究者による)
- ・マニファクチャラーズワークショップ
- ・一般演題 (口演/ポスター)

大会ホームページ <http://www2.convention.co.jp/aposm2012/>

お問合せ先 第5回アジア義肢装具学術大会 運営事務局 (日本コンベンションサービス株式会社 神戸支店)
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1 神戸国際交流会館 6階
TEL：078-303-1101 FAX：078-303-3760 E-mail：aposm2012@convention.co.jp